

波部忠重先生を偲んで

土屋光太郎

東京水産大学

Tribute to the memory of Dr. Tadashige Habe

K. Tsuchiya

年も押し詰まった 2001 年の 12 月 29 日、日本貝類学会名誉会長であり、熱帯海洋生態研究財団の創立から 1998 年までの 10 年間、理事を勤められた波部忠重先生がお亡くなりになりました。数年前より緑内障で眼を悪くされ、足元が危ないとのことで外出を控えられていらっしやったのでお会いする機会はめっきり減っていましたが、食欲も旺盛でお元気だと伺っていただけに、急の訃報に愕然とするばかりでした。ケアで入院されていたリハビリ病院のベッド上で、12 月 27 日の夕方発作で倒れ、救急車で聖マリアンナ医科大学病院に運ばれたとのことですが、意識が戻らないまま 29 日の午後 2 時 5 分に脳出血のためお亡くなりになったとのことでした。85 歳でした。

日本の貝類学における波部先生のご貢献については、いまさら言うに及ばぬほどのものですが、日本の貝類学研究史を大きく捉えて一言で言えば、明治に始まる日本の貝類研究は、その初期に平瀬信太郎・与一郎親子が海外の研究者との交流の道筋をつけてその途を開き、黒田徳米が国内での研究を押し広めた土台に、波部先生が厚み・ディテールをつけてまさに体を作り上げたということでしょうか。新種として波部先生が記載された新分類群は約 1300、好事家受けする大型美麗種のみではなく、小型・微小種の研究にも多大な力を注がれ、日本における研究をアマチュアのレベルから世界の先端に押し上げたのも波部先生の最大の功績であると思います。また、アマチュアや後進の啓蒙にも大変熱心にあたられ、各地で開催される同好会などの集まりにもまめに出席されていました。波部先生が保育社から出版された『続日本貝類図鑑』は、一般書でありながら、その緻密さから、私自身も含め日本の貝類研究者・愛好家の多くにとって他の図鑑と一線を画した『バ



イブル』であり、『教科書』であり、『目標』でありました。

残念ながら私自身の波部先生とのお付き合いはそれほど長いものではありませんでした。大学の研究室に入った 4 年生のとき、私の師である奥谷喬司先生が東大海洋研究所で行われる『談話会』に連れて行ってくださった折にお会いしたのが最初で、折りあるごとに貝類の分類についてお尋ねすると、浅学の私にも懇切丁寧にご指導くださり、また、貴重な文献を惜しげなくお貸しいただいたり、私のみでなく、後進の啓蒙指導に篤くお気を配っていただいたことには、感謝の念に堪えません。私は幸い財団でのご縁があり、大変幸運なことに『阿嘉島周辺海域産軟体動物目録』(みどりいし, 9: 15-25)を先生と共著で出版させていただきました。私の浅学無知の部分もあったため、先生には不満の残る著作となってしまったかもしれませんが、出版をご理解、ご指導いただいた折の先生の暖かさが心に深く残っています。心より先生のご冥福をお祈りいたします。